

境港水産物地方卸売市場

境港は「境界の港」という意味を持ち、昔から海に頼って生活してきました。漁業はどの時代でも常に必要不可欠な経済活動でしたが、16世紀以降、境港は主に貿易都市となりました。最初は日本海沿いの東側、そして西側は九州さらには大阪を相手に交易を行っていました。19世紀末に日本がアジア大陸の一部を植民地化すると、境港は朝鮮半島、中国、およびロシアとの交易の主要地となりました。第二次世界大戦が終わるとそれも廃れてしまい、それからは境港では漁業の推進に注力してきました。今では、地元の漁業と地元自慢の漫画家である水木しげるのキャラクターにちなみ、「魚と鬼太郎の町」として売り出しています。

活気ある競りと新鮮な魚介類

境港で漁船が停泊する埠頭や魚市場は、活気があり新鮮な水産物を食べられるということで、常に来訪客を集めてきました。市が水産物市場を再開発し、施設が大型化したことで、より効率よく衛生的に、日々水揚げされる水産物を運搬、取り扱い、販売できるようになりました。境水道沿いの埠頭側の市場スペースは一般公開されており、ツアーも開催されています。来訪者は上層階から、走り回るカートやフォークリフトから十分離れた安全な所で、競りやその他の市場の仕事の様子を眺めることができます。市場内やその周辺にはいくつかの食事処があり、新鮮な刺身やカニなどの地元の名物を味わうことができます。